

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191600036		
法人名	株式会社アイランドジー・アイ		
事業所名	アイランドジー・アイ小田グループホーム		
所在地	岐阜県瑞浪市北小田町2-285		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2191600036-00&PrEfCd=21&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 脱 廃用性を目指すグループホーム	2. 口腔ケアに取り組むグループホーム	3. 文化教室があるグループホーム
---------------------	---------------------	-------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一日の生活を大切にしたい独自の介護計画を作成し、生活歴を把握して輝かしい時代を思い出せるような生活リズムとなるように考え支援している。一日の中で、職員は、利用者が出来る場面を多く作り、その人のペースを大切にしている。一年の祭事を大切にしたい献立を考えて、恵方巻きやひな祭りのお寿司など利用者と一緒に調理して食事を楽しんでいる。代表者は、人の役に立てること・感謝の気持ち・貢献と人材育成に力を注いでいる。事業所内の文化教室として川柳や絵手紙、タペストリーなど利用者と一緒に作成し、作品を市の文化祭りに出展した。外出やレクリエーションを充実し、表情が豊かに利用者と職員が助け合って一緒に楽しく生活を送っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との交流が確保されるようことを目的として、積極的に地域へ出かけるよう目標を設定して実施している。	職員で話し合った事業所の理念を週1回唱和している。常に感謝の気持ちを大切に、利用者や家族の役に立てるようなケアが出来る様に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には日課の散歩中に交わすあいさつ程度である。年中行事としては、地域の秋祭、正月初詣、夏祭程度には参加している。	自治会に加入し、事業所の広報を回覧している。地域の人を大切に考え、散歩の時など積極的に挨拶することを心掛けている。近くの庭を見せてもらいに行ったり、おみこしや獅子舞が事業所に立ち寄りたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板にグループホーム便りを回覧してもらうようにして頂き始めた。関心を持って頂くことから始めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は未実施である。	代表者は、行政や地域の代表者、家族との関係は良好と考えている。運営推進会議を開催する必要性は認識しているが、今年度は実施していない。	運営推進会議を開催し、地域密着型施設として行政や地域の方々と共に話し合っただけで、家族や利用者の要望なども含め話し合いサービスの質の向上に繋がることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常互いに関わることが無い。季刊誌は届けている。社長は会社を代表して市の介護保険3委員会の委員を務めている。	代表者は、市の介護保険委員や地域策定委員などに就任しており、市の担当者と様々な情報交換や問題について話し合っている。地域包括支援センターから困難事例についての相談もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は存在しないが、過去の経験から玄関のオートロックはしている。	代表者は、職員が理解しやすい言葉に変えて説明し定期的に勉強会を行い、具体的な事例を上げて身体拘束の弊害について話し合い実践に繋げている。2階にある事業所であるが階段への出入口は施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時意識はしている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者やご家族に成年後見制度の紹介が可能な程度の知識は持っているし、必要時には支援できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情受付は窓口を設けているし、意見を頂けば検討する姿勢はある。	年4回家族会を開催し、家族や利用者から意見や要望を聞いている。毎月、担当者が近況報告を書いて家族に送っている。言葉使いや配慮の欠けた対応についての意見が出され職員間で話し合い改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議、全体会議、勉強会がある。	毎月リーダー会議やフロア会議に代表者が参加し、職員の意見など聞いている。利用者一人ひとりの作品を個別にファイリングするアイデアや食材や物品など各種のチェック表の活用などの意見が出され反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議、リーダー会議が職員としてのトレーニングの場である。また、外部研修の案内はその都度している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社としては実践する気が無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入段階は全職員が特別に注意して必要な情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入段階は特別に注意して必要な情報収集・交換に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入後の段階ではなく入所審査段階においてなら当然のこととして検討済みである。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHである以上当然のこととしてできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHであるから当然のことであるが、家族の本音を知った上で家族を巻き込むことの方が大切だ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人との関係を馴染み続けられるようにしていく仕掛しての行動までできていない。	外食や買物など馴染みのお店に出掛けている。家族が経営している喫茶店に出掛けたこともある。絵手紙を作成することを支援し、年賀状や暑中見舞として送っている。絵手紙の友人が来訪した際、再訪をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当然のことだしできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	求められれば内容によっては相談にも載る姿勢はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当然のことだしできている。	入浴時や夜間帯など一対一となったときに思いなどを聞いている。日常の何気ない言葉を受け止め、職員間で話し合っている。アセスメントや家族の情報から利用者の表情・動作を観察し思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当然のことだしできている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当然のことだしできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当然のことだしできている。	一日の生活を大切に考えた事業所独自の介護計画を作成している。生活の項目毎に、家族や利用者の希望、支援項目、注意点などが記入してある。毎月モニタリングを行い、職員の気づきなど話し合いケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当然のことだしできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応には職員配置上限界もあるが、なるべく要望を叶える姿勢はある。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当然のことだしできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当然のことだしできている。	かかりつけ医の受診は、家族に依頼をしているが、家族が要望された時や緊急時は、職員が受診の支援を行っている。受診の結果は、提携している訪問看護や協力医、家族と情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当然のことだしできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院との特別な関係作りはしていないが、情報の密なやり取りなどなどは、お互い通常の連携の中で機能出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象者は1名しかいないが、当然そのつもりでいる。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。看取り期となった時、協力医から家族に説明し、職員と話し合いを行っている。勉強会やフロア会議等で、看取りについて正しく理解が出来る様に話し合い取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年の定期訓練はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期訓練はしている。地域との協力体制の約束事などはない。	年2回定期的に避難訓練を実施している。新入職員が夜勤を行う前には、臨時に夜間想定避難訓練を行っている。災害発生時は、近隣する同法人の施設と協力できる体制はあるが、地域との協力体制は出来ていない。	住宅街にあるため火災等が発生した場合は、近隣に被害を及ぼす可能性もある。利用者の安全を守ることと同じように地域のためにも災害対策について検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ある程度の対応はしているしできている。	利用者の出来ないことを探すのではなく、出来ることを探すなど人格を尊重した声掛けを心掛けている。利用者の生活歴を把握して、いち番輝いていた時代を再現できるように職員間で話し合って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要な方には意思確認をするようにはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本当に設問の内容が必要な方であればそのようにするつもりはあるが、ある程度の日課はこちらで決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人には役割参加いただいている。	簡単な調理や味見、配膳など利用者が出来ることを手伝ってもらっている。誕生会のリクエストを聞いたり、外食に出かけたり、恵方巻きを作ったりして楽しんでいる。利用者同士の会話も弾み和やかな雰囲気支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当然のことだしできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当然のことだしできている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当然のことだしできている。	利用者自身の能力を上げて、恥ずかしい思いをさせない支援を心掛けている。夜間帯でもトイレに誘導することを基本としている。排泄パターンを把握し声を掛けて誘導することに努め、改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当然のことだしできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	こちらの日課として頻度時間は決めさせてもらっている。目下無理強いすることもなく出来てはいる。	入浴時間や温度など希望を聞いたり、二人で介助したり、ゆったりと入浴出来る様に支援している。菖蒲湯や柚湯など季節を感じられるように工夫している。併設されている施設の浴場を銭湯気分でも利用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	設問にある生活習慣との認識のずれがあるかもしれないが、本来の生活習慣を意識しているし体調の観察もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当然のことだしできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	割と努力している方だと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	割と実現している方だと思う。	市の文化祭りへ作品を出展し見学や図書館、地域のコミュニティーセンターに出掛けている。買い物など希望があれば個別にも出掛けている。気候の良い時期は、花見や花フェスタなど家族と一緒に外出している。急な外出の希望にも対応している。	

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には認めてはいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それが必要な方にはそのようにさせるが、今は居ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感、飾り、動線、季節感など、工夫・努力はしているつもりである。	利用者と一緒に作成したタペストリーや川柳が飾られていたり、季節の行事の記念写真を写真立てに飾ったりして、家庭的な雰囲気を醸し出している。リビングや廊下に花を飾り季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースしかないので思い思いとはいかないだろうが、これで良いと感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある程度工夫はしているし、家族への働き掛けもしているが十分ではない。ただし、ご家族へこれ以上の依頼をするつもりはない。	家族に使い慣れた家具などを持って来て欲しいと声を掛けている。花や観葉植物、家具などが置かれ居心地の良い空間となっている。利用者が好きな柄の布を買いに行き、手作りの暖簾が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事参加はGHの使命であると心得ている。現在は自立度、理解度の高い入居者が多いが、これから試される部分だと思う。		